「命」と向き合う仕事の心構えとは

日本看護協会「みんなで話そう―看護の出前授業」

茨城・水戸葵陵高校

講演する水戸赤十字病院の佐井川まさ子看護師長

水戸葵陵高校（鈴木博光校長）は、医師や看護師を目指す高校生に対して、医療にかかわる仕事の責任の重さややりがいを知ってもらおうと毎年、講演会を開いている。現役の医師や看護師、薬剤師などを講師に招き医療人としての基礎的教養を高めるのが狙いだ。体験学習で医療の一端を感じることで進路意識が高まり、ハードな受験勉強を乗り越える原動力になっている。

今年は夏休みに入る直前の7月25日、医歯薬コースの1・2年生50名を対象に講座を開いた。講師は水戸赤十字病院の看護師長、佐井川まさ子さんだ。1時間目は医歯薬コースのみ生徒全般に「看護職を通してのいのちの大切さ」をテーマに講演、2時間目は看護師を目指す生徒を中心に講演とバイタルチェックの模擬体験を行った。

講座は日本看護協会、茨城県看護協会が実施する「みんなで話そう―看護の出前授業」事業を活用したもので、地域の現場で働く看護師が「いのちの大切さ」や「こころとからだ」について、また職業教育に役立つ「看護の仕事」や「看護職に向けた進路」などについて、学校に出向き講師を務めるもの。2017年度は約400校、のべ4万人の児童生徒が参加する実績ある事業だ。

目の前に倒れた人がいたら？

医療系とひとくちに言ってもその仕事は幅広い。佐井川さんはスライドを見せながら医療の最前線を紹介していく。ヘリポートを活用する病院の救急医療や救急外来で手術の準備をする看護師の様子に生徒たちは見入っている。「手術の準備は看護師に特に高い技術が求められる」と佐井川さんは話す。また、医療ロボットを使った遠隔操作による手術、診療放射線技師が活躍するレントゲン室、患者のベッドサイドに行く薬剤師の様子なども紹介。医師と医療従事者である「コメディカルスタッフ」が連携しながら患者中心の治療やケアに当たる「チーム医療」が現代の医療の主流となる考え方だと伝えていく。

チーム医療の実現には医療従事者一人ひとりが高い倫理性を備えていなければならない。そのよりどころとなるのが医療職の団体などが定める倫理綱領だが、それ自体を紹介しても高校生には伝わりにくい。そこで佐井川さんは次のような質問を投げかけた。

「道を歩いていたら血を流して人が倒れていた。周りには誰もいない。あなたならどうする？」。多くの生徒が「助ける」と答えた。「見て見ぬふり、というのはできないでしょう。もしそれをしたら後ろめたさを感じるはず。それが倫理なのです。人の命は尊いものと思うこと、日々これを考えないと任務は果たせない」。

人の死に慣れない

命の尊さを日々感じるのが、現在、佐井川さんが勤務する緩和ケア病棟での仕事だという。2、3日に1回は患者を見送る「死」と向き合う日々だ。夫をがんで亡くした遺族の、治療が手遅れになってしまったことへの悔しさをつづった手紙を紹介しながら、インフォームドコンセントの大切さやチーム医療の重要性を説いていった。

講演後、生徒からは「人が亡くなるのを見てつらくないのか？」との質問があった。佐井川さんは「4年目になるが人が亡くなることには慣れることはないし、慣れてはいけないと思う。人生の最後にかかわる大切な仕事。提供した医療を振り返り、内省することが必要。燃え尽き症候群にならぬようオンオフの切り替えも意識的にする」と答えた。迷いのない答えに生徒たちは看護職の高いプロ意識を感じたようだ。

バイタルで看護師体験も

2時間目は将来、看護師を目指す生徒11名を対象に、より具体的に看護師の仕事を解説した。「看護師は命と健康を支えること。患者の生き方を尊重し、困難に対処する手伝いをすること」と定義した後、診療補助、患者の介助など看護師の日常をスライドで見せていく。活躍の場は病院だけでなく、老人介護施設や訪問看護、企業、保育園などさまざまだ。佐井川さんは被災地に派遣される災害看護の経験もある。

その一端を体験するため、血圧と心拍数を測定するバイタルチェックを行った。佐井川さんに教わりながら生徒はペアになって聴診器で心拍音を聞いたり、血圧を測ったりした。「せっかくだから問診からやりましょう」とのアドバイスで「今日はどうしましたか？」とたずねるところから始める生徒も。「看護師はコミュニケーション力が問われる仕事でもあり、やりがいのある仕事。ぜひ私の後輩になって」との激励に看護学部受験を決めている高校2年の2人は決意を新たにしていた。

バイタルチェックをペアで体験

「看護師の仕事のやりがいや、実際の情報を知るよい機会になった。1年生にも進路選択の参考になる有意義な内容だった」と、同校の須田知子教諭。医歯薬コースは16年前の開コース時から医療関係者を招く講演会を開いているが、その狙いにも沿った出前授業となった。

「みんなで話そう―看護の出前授業」
お申し込み事務局の
電話・FAX番号変更のご案内

このたび看護の出前授業のお申し込み事務局（日本教育新聞社）の電話・FAX番号が平成30年9月10日（月）に変更することになりましたのでご案内申し上げます
お手数ですが、9月10日以降のお問合せ・お申し込みは新しい番号宛にお願い申し上げます

新電話番号：03-3280-7058
新FAX番号：03-3280-7075

日本教育新聞　平成３０年８月２７日号掲載